

国際交流員

ヨークさんの



Mainburg 滞在記

MORIMORI
滞在記

私は守谷市の国際交流員で本場にラッキーでした。

…というのも、守谷市の姉妹都市マインブルクが9月26日に市制施行60周年記念式典を行い、会田市長と松丸市議会議長の両夫婦が招待され、私も通訳でマインブルクに同行できたからです。今回は、その出張の模様を報告します。

ドイツに着くと、マインブルク市役所の職員が「マインブルクへようこそ！」という看板で出迎えてくれました。職員の皆さんは会田市長と再会し、明るく抱きしめて挨拶しました。外に出たら少し肌寒く、やはり秋はドイツの方が寒いなと思いました。最初の夜はマインブルク市長と副市長

が夜遅くまで会議があり、会えませんでした。翌朝は、有名なローテンブルク・オブ・デア・タウバー市をマインブルク市長夫婦に案内してもらいました。到着後、中世の旧市街の日本語ツアーに参加し、散歩中に日本人が経営するお土産屋さんも見付けました。午後にはローテンブルク市長に独特な習慣で歓迎され、夜は中世の城壁に囲まれてホテルに一泊しました。

次の日は、マインブルク市のギリシャの姉妹都市訪問団も到着し、一緒にマインブルクの幼稚園、老人ホーム、污水处理場などの施設見学をしました。通訳では専門用語が必要で、私は少し苦労しました(笑)。

見学の中で病院が一番興味深かったです。20年以上マインブルク病院で働いている日本人医師が説明をしてくれたお陰で、私は見学に集中できました。通常は入れない診察室に入れてもらい、手術中の見学もありました。ギリシャ人は病院の見学で特に多く質問をしていました。ドイツとギリ

シャの医療制度は随分違うようです。対照的に、市長・議長はほとんど「うん、そうだね」という反応をしており、日本の制度と似通っている点が多いようでした。やはり日本とドイツの間には、共通項が多いと感じました。

今回の公務の一番の目的であった市制施行60周年式典は、いかにも「式典」といった感じで、重厚感がありました。行事の締めくくりとして、マインブルク市がギリシャと日本の訪問団をミュンヘンのオクトーバー・フェストに招待してくれたことは、本当に良い思い出になりました。守谷市の元国際交流員のリッヒターさんとブリタさんも参加して、一緒にビアテントに入り、おいしい食べ物や食べたり、冷たいオクトーバー・フェスト・ビールを飲んだり、みんなでわいわいと楽しみました。

市長、議長、私がお世話になったマインブルクの方が守谷を訪れる際は、有名な日本の「おもてなし」でお返ししたいと思います。

ARCUS
Residency for Artists, Experiments for Locals, Moriya,Ibaraki
現在のアート・芸術文化を守谷から。

- ホームページ
<http://www.arcus-project.com/>
- フェイスブック
<http://www.facebook.com/arcusproject/>
- ツイッター
<http://www.twitter.com/arcusproject/>

● 問合せ先 アーカススタジオ (もりや学びの里2F ※日・月曜日休館)
☎46-2600 (10:00~18:00)

◇アーカスプロジェクトの最新情報は、ウェブや守谷市HPの「楽しむ・学ぶ」から！

落ち葉が積もり、冬の足音が聞こえる季節となりました。

◎テーブルミーティング Vol.10



100日間の滞在制作を終えつつある招へいアーティストたちを囲んで、彼らは何を体験したのか、今後どのような活動をするのかを聞きます。

- ゲスト
3人の招へいアーティスト
- 日時
11月22日(土)
午後3時~5時
- 会場
アーカススタジオ